

モンゴル通信

NO.5

ゲルを探して

あれは、暑い夏の日でした。「田舎に行くよ！」と同僚に誘われ、行き先も分からぬまま車に乗りこんだ…。大草原の道なき道をガゼルの群れを見ながらひた走り、ゲルを見つけては「〇〇さんのゲルはどの辺か？」と尋ね、牛の群れを前に一時停止。あと少しだろうと思われるところで電話をかけ、目的のゲルのバイクの灯りを頼りに、何とかたどり着くことができました。やっと着いたとホッとしたのもつかの間、塩ゆでの羊肉とスーテーツァイ（モンゴルのミルクティー）を振る舞われ、ガタガタ道で上下左右に揺られた胃がさらに大変なことになるのでした。

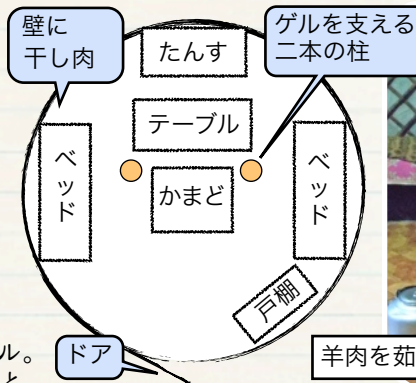
街で暮らすどの人にも遊牧民の親戚がいると言っても過言ではありません。たどり着くまでの道がどんなに陰しくても、皆声を揃えて「田舎はいいよー！」と言い、休みがあれば草原に向かいます。私も実際に行ってみて、胃がどんなに大変なことになるうとも、行く価値のある素晴らしい場所であることがよく分かりました。

直径5mのゲルで

今回訪ねた遊牧民一家は、父母、7歳の女の子と3歳の男の子の4人家族。太陽光発電が備えられていて、ゲルの中には裸電球の灯りにテレビもありました。ゲルは、木を組み合わせた紐でくっただけで作られています。ネジや釘は一本も使われていません。天窗を開けたり、カバーの床部分をめくったりすれば涼しい風が吹き抜け、フェルトのカバーで覆い、真ん中にあるかまどに火をくればポカポカに。家財道具は、テーブルと服などが入った小さなたんす、食器や食材が入った小さな戸棚と二台のベッドのみ。冷蔵庫はありません。壁に肉が干されていることに驚きましたが、ベッドの下から生肉が出て来たときは、もっと驚きました。ここが冷蔵庫代わりだったとは！



冬に備えて壁に干された羊肉



羊肉を茹でているところ

何も無い草原の中にポツンとある直径5mのゲル。この家族4人のほとんどモノをもたない暮らし方と、見ず知らずの外国人に対しても、自分たちの空間とモノを分けてくれる心。学ぶことがたくさんありました。どんな時でも他者を招き入れ、暖かいお茶を振る舞い、時間を共有できるって素晴らしい！！

草原トイレ

私がこれまで出会った3タイプの草原トイレを紹介しましょう。

- ①. 木の囲いの中に深く掘られた穴があり、その上に木で足場が組まれているタイプ。自分まで落ちてしまいそうでドキドキです。
- ②. ①に洋式便座が設置してあるタイプ。もちろん水洗ではなく、深く掘られた穴に排泄物が落ちて行きます。めったに出会えません。
- ③. まさしく草原トイレなタイプ。ゲルや家畜の囲いから離れ、草が生い茂っているところや、わずかな谷を探し、しゃがんで用を足す。紙は自然に返らないので、持ち帰るのが礼儀です。

このように草原トイレのタイプを把握するまで、幾度も失敗を繰り返しました。～ある時は、雨が降る中“ここならいいだろう”と草原にしゃがみ込んで用を足していた。すると、そばのビニールカバーの中から雨宿りをしていたおじさんが現れ、「ここはトイレじゃないぞ！」と怒られた…。またある時は、お邪魔させてもらったゲルの遊牧民に「どこでしたらいい？」と訪ね「あっちだよ。」と指差された先にあったスカスカの木の囲いの中で用を足した。数時間後、再びそこへ向かおうとすると、トイレと思い先ほど用を足した囲いの中に、放牧から帰って来た子牛さんたちが横たわっていた…。コロコロとした塊が子牛のものだったとは！子牛さんたち、ごめんなさい。もっとずーっと先に存在する、しっかりと木で囲われたトイレが全く目に入っていなかった…。～

さて、今回は、どの様なタイプだったかというと、③のまさしく草原トイレ。一人で行ったら犬に噛まれるからと、7歳の女の子に手を引かれ「ここでいいよ。」と教えられ、一緒に用を足しました。大草原の中で満天の星空を眺めながら…なんと気持ちのよいことか！トイレトペーパーとビニール袋を持って草原を彷徨っていた頃が懐かしく思えるほど、草原トイレに慣れてしまったのでした。(富井愛)



①②のトイレの木の囲い